

作文小学校低学年の部で厚生労働大臣賞を受賞

■日常生活の中で気付いた「水の大切さ」について思いを綴る

水道に対する理解を深めてもらおうと、水についての作品を募集した「第57回水道週間作品コンテスト」には、市内小中学校・一般から865点もの作品応募があり、上位作品は日本水道新聞社主催（日本水道協会・全国簡易水道協議会・厚生労働省後援）の懸賞募集に応募しました。



その結果、作文小学生低学年の部において及川直^{なお}くん（加賀野小3年）が特選（厚生労働大臣賞）に選ばれました。

表彰は11月13日（金）午後3時から水道事業所2階で開催される「登米市水道作品コンテスト表彰式」と併せて行われます。

「大切な水」

登米市立加賀野小学校 3年 及川 直

「二人ともちょっとここすわりなさい。」

きょ年の夏、お母さんがこわい声でぼくとお姉ちゃんに言いながら細長い紙を二まい出しました。『水道しりょうのお知らせ』と書いてある紙で、一か月にどれぐらい水道をつかって、そのりょう金はいくらかということが書かれているそうです。そして、その金がくが前の月にくらべてかなり高くなっていることで水道のメーターをしらべに来た人に「どこか水がもれていませんか？」と言われてすごくおどろいたそうです。その時ぼくは、毎日のようにお風呂でお姉ちゃんとシャワーで水をかけあったり、水を出したまま遊んだり、ゆ船ではしゃいでお湯がへったために何ども足し湯をしたことを思い出して、心の中

で「やばい！」と思いました。

「きゅうに水道りょう金がふえたんだけど何か思い当ることはない？」

紙を二つならべたまま、こわい顔でいわれました。まだ水のたんいやお金のべん強はしていない時だったので、どれくらいいつかってどれくらい高くなったのかはよくわからなかったけど、お母さんがおこっていること、むだづかいをしたために水道りょう金が高くなったことはわかりました。

「あなたたちはお金をただながしてすてたのと同じこと。むだにながしてしまった水があればどれだけの人がたすかったんだろうね。」

ぼくはそのとき、お母さんがおこったのは水道りょう金が高くなったということだけではないことに気づき、大切なことを思い出しました。

前にテレビでせかいではかんたんに水が手に入らない国があることを知りました。小さな子どもが遠くまで水くみに行くこと、よごれたいど水をのんでびよう気になってしまうこと。それに比べて日本はじゃ口からすぐきれいな水が出るのだからとてもしあわせであることをお母さんやお姉ちゃんと話したことがあります。また、しんさいで水が出なくてふ安な思いをしたことやのこった水を一てきもむだにしないように大切につかったこともあったのに、それらをわすれてむだづかいしてしまったことをはんせいしました。

ぼくはその時からなるべく水をむだにしないように気をつけています。日本とはちがってかんたんに水を手にできない国はたくさんあります。日本には、ぼくたちが安心しておいしい水をのめるようにはたらいてくれる人もいます。きれいで安心な水を飲めること、そしてその水をつくってくれる人たちに感しゃする気持ちをわすれずに水を大切にしたいと思います。

